

議 長 休憩を解いて再開いたします。 (13時00分)

受付番号第3号、田代実君の一般質問を許します。登壇願います。

2 番 田 代 議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。受付番号第3号、質問議員第2番 田代実。件名、平成31年度に実現しよう、『松田小の木づくり校舎建設』を！

要旨、初めに教育施設基金とありますけども、これは正確には教育施設整備基金ですので、改めさせていただきます。

教育施設整備基金は、平成31年度の松田小学校校舎建替事業を目標に創設されたものです。平成28年度末の基金積立額は2億5,000万円余りになります。先ほどの町長の所信表明では、29年度末に2億7,000万円になる予定です。そして、平成28年第3回定例会で議決した「木の学校づくり先導事業」により、松田小学校の木づくり校舎建設が本格的にスタートしました。

松田町にとって、夢を抱ける大きな事業ですので、次のことについてお伺いします。

(1) 平成31年度を建替工事着手するためのスケジュールは。

(2) 木づくり校舎の規模・総事業費・財源内訳は。

(3) 松田小の木づくり校舎は、松田町の遺産とすべきものと考えます。実現に向けての町長の思い入れは。

最後に、町長にちょっとお願いがあるんですけど、2番の総事業費とか財源内訳、これはちょっと基準になる数値ですので、ゆっくりちょっと答弁をお願いしたいと思います。以上のとおりです。よろしくお願いいたします。

教 育 長 それでは、ただいまの田代議員の御質問に順次お答えいたします。

まず、1点目の御質問でございます。松田小学校は昭和48年3月に建設された建物で、建設後46年を経過し、老朽化が著しく、ここ数年は雨漏りや設備の修繕など経年劣化によるふぐあいにより、建てかえが避けられない状況となっております。

学校施設は、子供たちの学習環境の場でもあるとともに、一日の大半を過ごす生活の場でもあり、それにふさわしい豊かな環境として整備することが求められています。また、地域に開かれた施設にする必要もあります。このため、

松田小学校の校舎建設に当たりまして、町総合計画実施計画では平成31年度に着手することとし、基金が設立されました。校舎建設に当たっては、多額な経費がかかるため、国庫補助金を活用することが必要であります。しかしながら、昭和40年代に建設された学校は全国に多くあることなどから、単に老朽化した校舎を建てかえするだけでは国庫補助金の交付対象となりません。児童・生徒が増加し、既存の学校校舎で収容ができなくなったために、新校舎を建設する場合などであれば、国庫補助金の交付対象となります。

こうした中、文部科学省では全国的な規模での木材利用を推進するため、平成26年6月に建築基準法により規制緩和された大規模木造校舎の整備に対して必要な支援を行う木の学校づくり先導事業が平成27年度から開始されました。本町では、この事業による支援を受けながら、木造校舎を建設するための計画を進めるため、国に補助申請をしたところ、平成28年度に事業決定が行われました。

続いて、スケジュールについてお答えいたします。平成28年度は、木の学校づくりの要綱を定めて、松田町立学校校舎建設基本計画策定委員会を設け、鋭意検討を行っており、平成28年度中に基本構想（概略設計）までを策定する予定であります。平成29年度は、校舎建設の設計者と施工業者が一体となった企業体を選定する際に、複数の者に目的物に対する企画を提案、いわゆるプロポーザル方式により設計者と施工業者の企業体を選定し、基本設計を実施する予定であります。この方式を採用する趣旨としましては、設計後、施工業者の選定する入札を執行するときに、不落となるリスクを回避することと、設計から施工、完成までのスケジュールに無駄を生じさせないことで、コスト縮減が図られるものと考えております。また、木の学校づくり先導事業の補助対象は、構造上危険な状態である建物等の建てかえ、改築を行う校舎の耐力度が基準を下回る場合であります。この耐力度を調べるために、松田小学校の委託事業として、診断についての費用を来年度予算に計上しているところです。

その後、プロポーザルで提案された内容を審査し、基本設計、平成30年度には実施設計を行い、平成31年度に工事着手し、同年度末に本体工事の完成を予定しております。

平成32年度では、既存校舎の解体、グラウンド等の整備を行い、全ての工事が完了する予定としています。子供たちにできる限り不便をかけないように取り組んでまいります。

続いて、2点目の御質問の木づくり校舎の規模、総事業費、財源内訳はということですが、校舎の規模は先ほど答弁しましたとおり、松田町立学校校舎建設基本計画策定委員会を設け、鋭意検討を行っています。その中で、既存の校舎を使用しながら建設することを前提とすることから、現運動場が校舎の建設エリアとなります。計画条件として、木造3階建て校舎、体育館、給食調理場の設置、既存学級数と同程度の教室数、放課後子ども教室、学童保育室を設置する規模としています。

総事業費については、この検討委員会の基本計画に基づいて、概略の事業費がわかるかと思いますが、現段階で近隣に木造校舎の例がありませんので、他県の新築校舎建設にかかった費用を参考にしかありません。それから考えますと、おおむね25億円という事業費が見込まれます。

財源内訳について、この数字をもとに算出いたしますと、まず、25億円が総事業費でございますので、学校施設整備事業として、学校の規模に応じて国が定める基準に応じて決定される補助対象事業費枠がおおむね15億、残りの10億が補助対象外事業費と分けて考える必要がございます。補助対象事業費枠の3分の1が補助金として交付されますので、5億が国庫補助金となり、残りの10億のうち90%が後年度の交付税でその一部が措置される起債が可能になり、残りの1億が補助対象事業費枠の中の現金で用意する必要のある一般財源となります。

次に、補助対象外事業費についてでございますが、10億はどのように資金を準備してもよいのですが、起債ということになるかと思えます。そこでは、事業の性格上、75%の起債を起こすことができますので7億5,000万、残りの2億5,000万が現金で用意する必要のある一般財源となります。したがって、先ほどの1億と合わせて3億5,000万の現金が初年度に必要となり、16億5,000万が起債、5億は国庫補助金で賄うこととなる予定であります。

3点目の御質問ですが、これについては、町長より答弁させていただきます。

町

長 それでは、3点目の質問につきましては、私のほうから答弁をさせていただきます。

木造校舎は、松田町の遺産とすべきと考えるが実現に向けての考えはということにつきまして、木材を活用した学校づくりは、木が持つ香りや温かみや感触、高い吸湿性といった優れた性質を持っており、この性質を活用した木造校舎は、潤いのある学習・生活環境を実現する大きな効果が期待できると考えております。また、木を生かした学習・環境教育など、地域に目を向けた地域を教材化した学習も可能となるほか、地域の活性化にもつながるということを予想しております。さらに、計画策定委員会において、施設の計画段階から町民や保護者にも御参加いただいていることで、町民の御意見を施設の設計や活用計画に反映するとともに、認知度や学校への愛着の向上につなげていければというふうにも考えております。また、子供たちにとっても、学校生活が楽しい、この学校で学んでよかった、などと思ってもらえればと願っているところでもございます。

また、新しい学校を建設するからには、機能性を持たせ、全国的にも斬新なデザインを取り入れることで、将来を見据え、社会の変化、情報化・国際化など、これからの学校教育に求められるものをしっかりと見つめた上で、計画をしまいたいというふうにも考えています。

また、災害時の避難所としての機能はもちろんのことでございますが、地域に開かれた学校としての機能も持ちあわせることも視野に入れ、地域の方々が集う、開かれた学校とすること、地域の目が行き届き、安心して子供たちが学ぶことができる環境をつくることができればというふうにも考えております。

建設に当たっては、予算の確保や立地条件等、今後の児童・生徒の数の動向など、さまざまな角度から考え、想定外を少なくする必要性があります。国の先導事業にふさわしい全国の先進モデルとなるよう議員の皆様を初め、町民の方々の御意見を取り入れながら、新校舎の建設に取り組んでまいりたいというふうにも考えております。

結びになりますけれども、松田町、また日本国を背負う、未来を担う子供たちの育成の場とするために、未来に「ツナグ」、また環境にとにかく優しい学

校をつくってまいりたいというふうには考えております。以上です。

2 番 田 代 それでは、1番から順次質問させていただきます。計数については担当課長さん、それとあとは政策的なものについては教育長並びに町長ということで御回答をお願いいたします。

まず初めに、確認なんですけれども、工事着手が31年度に着手して、本校舎の完成が翌年の3月というふうに聞こえた感じがしました。32年度に残りの全体的な残工事をやって、33年の春に全てが完成と。工事については、31年、32年度の2カ年で工事と、このようなことでよろしいか、まず確認でございます。

教 育 課 長 お答えいたします。平成31年度に工事着手するという御回答をさせていただきました。1年間かけて、校舎のほうは完成をさせたいという予定でございます。ただ、既存の校舎がございますので、32年度に既存の校舎を解体並びにその場所にグラウンドを整備いたしますので、それが期間としては1年を見ているわけではございませんので、並行して入っていくかと思っておりますけれども、平成32年度の途中で完成を目指したいというふうに思っております。以上です。

2 番 田 代 再確認です。木造の、要するに生徒さんが学ぶ校舎、これについては32年の3月完成と、このように理解してよろしいでしょうか。

教 育 課 長 はい。その予定で計画しております。

2 番 田 代 このことについてぜひお願いしたいのが、どうして3月に完成なのでしょうかとということです。1つの例で、これはもう昔の昔の大昔の話なんですけれども、私、昭和46年3月10日に松田中学校を卒業しました。そのときに、今の、現在の松田中学校が建てかえをしている年でした。私ども3年生は、その学校に入れなかった。ところが、当時の町長さん、または教育委員会の御配慮で工期を少し早くして、3月に1週間ほど入れていただいた記憶があります。そのときに感じたことが、松田中学時代の一番の私の悔いに残る思い出が、1週間も入れなかった。工事期間中は、南側に今建設されて、北側に木造校舎があったんですけれども、そのときに工事用の幕が張られて、一切日が入ってこない。音は、雑音、工事の雑音はする。冬は一切日差しが入らないので寒い。木造で古い校舎だったので、すき間風が入ってきて、ストーブをたいてるんですけど、全然機能してなかったような、そんな記憶があります。特にトイレは、

ぽっちゃんトイレの最たる例で、今の人だったら使えないようなトイレだった記憶があります。

要するに、3月にしてしまうと、その小学校6年の、これから32年3月に卒業するであろう小学6年生は、私が体験したのと全く同じ犠牲を強いられることとなります。今の松田中学校の例で言いますと、当時、中学、私が3年で、1つ下の2年生には総務参事の小林参事がいました。中学1年生が、吉田政策課長と田代副町長、今の幹部の方は当時の状況、私が話した状況というのがすごいわかると思います。小林参事は1年恩恵を受けた。新しい校舎に入れた。副町長と吉田課長は2年入れた。何にも苦労しなくて入れたのが、議長の横にいられる議会事務局長、当時小学校6年で、わあ、きれいな学校に入れるということで入られてきました。それ以降は、幹部の方は皆、そういう流れは知らない中で、いや、いい学校だということで当時は入ったと思います。

私は何を言いたいかというと、この学校建設って、本当に夢が抱ける事業なんだけれども、卒業する人にもいい思いを持っていただきたい。まして12歳。すごい夢を抱けるときに、自分が卒業するときにやっと学校ができた。ああ、きれいな学校だ。それでおしまいになってしまうんですね。

そういう中で、私ども議会で11月の1日、2日、長野県の三岳村、当時は三岳村です。今、木曾町らしいんですけども、その木造校舎を見学しました。それとあわせて、川上村ですか、レタスの有名な川上村です。そのね、2つを見学させていただいたときに、川上村はね、平成20年の7月に本校舎を完成してるんですよ。よろしいですか、町長と教育長。これ、すごい大事なことです。8月末から、寒いところですから、8月末から2学期が始まるんですよ。そのときに、中学校の生徒さんは新しい校舎に入って、それで半年以上ですか、新しい学びや、すばらしい木造校舎に入ったという考えがあります。

したがって、今、何をお話ししたいかというと、3月末完成を子供たちのために、少なくとも2学期ぐらいから入れるような、そんな形で計画を。まだ計画の段階ですのでね、ぜひそういうことで行っていただきたいんですけども、いかがでしょうか。これは理事者に回答をお願いいたします。

教 育 長 今、大変貴重な御意見をいただきましたけれども、これから計画を立てる段

階でもありますので、今の御意見も参考にしながら、できるだけそうしたものに沿うような形で計画段階から検討していきたいとは思っております。

2 番 田 代 ただいま教育長からは、そういうふう to 努力するというふうな、計画の中に検討しながら入れていくということなんですけれども、学校の施設をつくる側の町長のほうのお考えをお願いいたします。

町 長 今回は、町立学校の建設に当たっての基本計画策定委員会というのを設けるというふうなことで、今現在進めているところでもありますので、そちらのほうにはお話をすべき話だと思います。非常に、普通に考えれば、田代議員の言われているのは本当のことなんですよね。ある意味、当たり前の話であって、行政的にはここからここまでという年度で分けて、つついこういいう話をしたということであると思います。ですから、そういった面でいくと、今後もスピード感を持ってやんなきゃいけないということに対してのスケジュール的にはかなりタイトな状態であるなというふうに思ってますので、その節には、皆さん方に発注の仕方、またプロポーザルの仕方等々御説明しながら、スピーディーに進められるように御協力をお願いしたいなというふうに思っております。ありがとうございます。

2 番 田 代 繰り返しになりますけれども、公共事業が3月末完成は私も十分承知してます。橋だ、道路だ、または施設だ、集会所だ、そういったものは3月末でも仕方ないのかな。いろんな絡みからして、ましてや単年度事業の場合は、そういったことが慣例で、実務上仕方ないと思います。ただし、今回のものについては、そこに子供がいます。6年生の子供が当事者です。その子供には、お父さん、お母さんもいます。そういったことで、みんながこの木造校舎の建設完了するのを歓迎していただくために、ぜひ6年生が何か月間か入れる、そういったことをお願いしたいということでございます。町長、もう一度お願いいたします。くどいようで恐縮です。

町 長 先ほども述べたように、当然だと思っておりますので、その期間の工事の短縮というか、その辺は計画的にですね、進めてまいりたいというふうにも思っております。ただ、解体とか云々に関しては、今度6年生が卒業するときにまた解体をしてしまうということも、またなかなか忍びないところですから、その辺

も含めてですね、検討して、とにかく卒業する子が新しいところにも少しでも学びやとして、将来的にまた松田町に戻ってきてもらいたいというのもありますしね、そういった格好で考えながら進めていければというふうに思っております。以上です。

2 番 田 代 どうも前向きな回答ありがとうございます。1番については、スケジュールについてはこれで終わります。

次に、2番の校舎の規模、総事業費、財源内訳、こういったものについて伺いたします。先ほど、木造3階建て、既存校舎と同程度というふうな回答を教育長からいただきましたけれども、まず初めに、木造3階建て、この体育館・校舎、両方とも全て木造というふうな考えでいられるかどうか。まず、これについてお願いします。RCの併用があるかどうかということです。

教 育 課 長 お答えいたします。先ほど、教育長のほうから財源、総事業費の関係をお話させていただきました。その中では、総事業費25億ということで答弁させていただいております。その財源で考えますとですね、私も幾つか県外の学校のほう、視察させていただいてるところを見ますと、やはり地方でつくられている木造校舎とこの首都圏でつくられている木造校舎とでは、相当数建築単価というのが違ってきています。そういうものを換算しますと、やはり首都圏で見た建築単価で考えますと、やはり25億という金額の中で考えれば、全体を木造するのは、それは木の使い方にもよるかもわかりませんが、やはり一部RCを取り入れた中で、斬新なデザインを考えたいというふうに思っていますので、そういったところで今、計画策定委員会の中でもお話しさせていただいておりますので、できるだけ校舎のモダンな、木造校舎でありながらモダン的な機能性のある校舎を計画していきたいというふうに考えてございます。

2 番 田 代 先ほど、今、小田課長の話で、建築単価は松田の場合に首都圏なんで高いと。私どもも御存じのとおり、11月の1日、2日、昨年、長野県の木曾町の三岳小学校ですか、元三岳村の小学校と、あとは川上村の中学校、これを建設した木造校舎を見ました。そのときに、三岳小学校、これについては12億6,900万ほどかけてます。床面積が3,838平米、すごい乱暴なんですけれども、1つの議論する基礎数字として積算いたしましたのが、総事業費で床面積割りました。

そうすると、三岳小学校の場合は、平米33万です。坪当たり109万3,000円になりました。それと、次は川上村の川上中学、これについては延べ床面積が6,534平米です。総事業費が20億6,000万ですか。これも同じように割り返しますと、31万5,000円、平米当たり、坪にすると104万2,000円。この単価の高いほうをとりあえず試算として、三岳小学校が高いですね、平米33万。これを松田小学校の想定してる25億円ぐらいが予算だよと。面積についてはまだ検討中なんだけど、総額とすれば25億円ぐらいが財源的にアッパーだろうと。その中で計画をこれから3月まである程度詰めていくよというお話で、この25億で割り返しました。25億円割る33万ですか、平米。そうすると面積がですね、7,727平米かな、という面積が出ました。要するに面積については、学校の規模については、延べ床面積についてはまだ検討中だからわからないよというお話なんで、勝手に、議論するために25億円の予算で、三岳小学校の実際かかった単価で割り返すと7,727平米ぐらいのものができるのかなと。これをね、ごめんなさい、7,700じゃなかった、7,560平米だ。25億円割る33万で割ると、7,560平米でした。ちなみに、27年の財産調書である松田小学校の延べ床面積が7,727平米。今の松田小学校が7,727平米。25億円を三岳小学校の単価で割り返すと7,560平米、大体同じです。先ほど教育長からお話があった既存の校舎と同程度のものを想定するというのは、この計算では大体イコールになるんですけども、一方で今、小田課長の答弁が、要するに地方は材木安いんだよと、諸経費も安いんだよと。松田の場合、それを持って来るから割高になるよというふうなお話がありました。視察先を見てみますと、木曾町ですか、元三岳村は木曾の有数なヒノキの産地。国有林からそのヒノキ材を譲っていただいて整備したと。一方の川上村。これについては、カラマツが産地だということを視察で知りました。おじいちゃん、おばあちゃんが植えたカラマツで木造校舎を建てて、それで孫がそこで学ぶと。実際には使った材料の80%が村営の林があるそうですね。カラマツの林があって、そこから調達していると。うちで言えば、松田町の松田山に町の町有地があって、そこにヒノキがありますけども、それではちょっとつukれないかなって感じするんですけども、要はお話ししたいことは、両方とも木の名産地で、自分のところでとって使ってるから、非常に首都圏で

使うよりは安くできてると。したがって、単価的には松田がすごくいってしまうと。そこで矛盾になるのが、小田課長はある程度高くなるんだ、なってしまおうと、安くはできないよと。一方で、教育長は同程度の規模、要するに7,700が今の松田の小学校の規模なんですけども、その辺がちょっと矛盾が出てきたんですけども、その辺はいかがでしょうか。

教 育 課 長 お答えいたします。矛盾と申しますか、例えば今、その木曾町の三岳小と川上ですか、のほうの校舎の単価、言われました。それは、要は地場産というんですかね、その村なり町で持っている町有林でしょうか、そういったところの木を調達した中で、コストを安く抑えている部分での要は単価ということでした。我々としては、この県産材、神奈川県産材を持っているわけではございませんので、そこから調達しなければならない。ということで、例えば面積的には同じ面積かもしれませんが、それと同程度で同じものを調達するとなると、やはりコスト的には高くなるのではないかなというふうには考えてます。ですので、この辺、首都圏で建てられている単価で見ますと、やはり今言われた33万円という単価ではちょっと不可能かなというふうには考えてます。ですので、同面積ですけれども、それを同じような形で調達して木材でやるとなると、相当の金額に乗ってしまうのかなというところを考えてます。そういった意味でございます。

町 長 すいません。本来、ちょっと教育長が話しするところでございますけども、先ほど教育長の答弁の中でありました同規模という話はされてなくて、既存の学級数という話をさせてもらったと思います。ですから、今の既存の学級数と同程度の教室の数ということですから、今と全く同じ、要はもうあいてる部屋もありますから、あいているやつはちょっと置いといてということでございますので、御理解いただきたいと思います。以上です。

2 番 田 代 再確認させてください。先ほど、松田小学校の延べ床面積が7,727平米あると。今回は、教室数を同程度という話ですから、この面積よりもある程度下がると、延べ床面積的な考えです。教室数の、今の実際に稼働している教室数だよ、クラス数だよ。そうすると空き教室もありますから、面積がある程度、現行の7,700よりも低くなるのではないかと、そういう考えでよろしいですね。確認です。

教 育 長 教室数については、そういうことが言えるかと思えますけれども、新たに先ほどもありましたように、例えば給食の調理室を新たに大きくつくったりとかですね、それから図書室も今までの図書室ではなくて、パソコン等も備えた形でのものを考えてみたりというふうなことで、そうしたものも新たに入ってきますので。それから学童保育の部屋とかですね、そういうことを考えますと、必ずしも教室数は今の現状と合わせますけれども、極端にそれが少なくなるということではないかと思えます。そうしたものも考慮すると。

2 番 田 代 現在面積が出てないんで、拡張の議論、これから重ねても仕方ないんで、この質問については同程度クラスの規模・面積、そのくらい必要になるかもというふうにとらえさせていただいて、あとは基本計画が出てくるのを楽しみにお待ちしております。

ここで心配なのが、先ほど25億円というお話をされました。県内には木造校舎がないんで、実際につくられた木造校舎を参考にすると、おおむね25億円ぐらい、松田の小学校に当てはめると総事業費が25億円ぐらいだろうというお話でした。国庫支出金、これが5億ほどいただける。起債で90%と75で全部それを足したものがたしか16億5,000万になると思います。16億5,000万。それを合計した額が21億5,000万ですよ。起債と国庫支出金。25億を引き算すると3億5,000万が一般財源ということになると思います。このうち、基金が29年度末で2億7,000万たまる予定だというふうに所信表明のほうであったんで、これを差し引きすると8,000万ぐらいが町単で出す一般財なのか。31年度の初年度と32年度に出す額が、計算上は8,000万だということで、確実にできそうなんですけれども、ここなんです。財政的に結構厳しいかなと、私、予想してたんですよ。去年の9月9日の補正のときは、国庫補助が半額もらえるという前提だったんですけども、その後、人口が伸びてないと半額もらえないよと。ここで耐力診断をして、それに耐えられなかったら3分の1いただけるということで、今そういう前提で5億円いただけるというふうなお話をされたと思うんですけども、財源的にはこれは何とかなんですけれども、一番ちょっと気になるのが、起債を目いっぱいアップーで見てると思います。国庫対象の起債額が90%、それと国庫対象にならなかった起債が75%というお話だった

んですけれども、これは借りられたらの話です。それと、先ほどお話ししたように坪、平米30万少々、33万ぐらいであれば、今と同程度の面積の延べ床面積が確保できるんですけども、どうもやっぱり木材だと結構高いらしいということになると、25億円の総事業費でも、面積を、学校を小さくすればいいんですけども、そこそこの面積であると相当厳しいと思います。この辺については、財政のほうをあずかる課長のほうとしては、どういうふうな見方をされてるか。私は初め、計算上これでいいと思ったんですよ。ところがやっぱり、今のお話を聞いてくと、結構厳しいなという感じなんですけれども、この辺についてお願いいたします。

政策推進課長 この話が出たときから、そういう予算立ては検討してございます。

まず、基金のお話なんですけれども、議員おっしゃるとおり、現金として3億5,000万必要だということになります。29年度末に2億7,000万になる予定でございまして、30・31年度で3,000万、3,000万、一応6,000万。31年度末には3億3,000万になる予定でございまして。学校を建てるに当たって、一般会計からの負担金として例えば2,000万円繰り出しすれば、31年度には3億5,000万という金額になろうかと思えます。

先ほどの起債の件でございまして、補助対象の10億の9割を起債で9億円、それから議員おっしゃるように一般の起債として7.5億円、合計16億5,000万円ほどございまして、を一応借りることになります。ただ、その補助対象の9億円のうち60%は一応交付税算入されるということになってございまして、年間にして4,000万程度の25年、庁舎と同じ25年で起債しますと年間4,140万円程度返していく、償還していくのかなということになろうかと思えます。

それで、この25億円として借りた場合なんですけれども、心配なされます標準財政規模に対する実質赤字比率でございまして、0.7%ぐらい上昇するということで、現在6.3%でございまして7.0%程度になろうかと思えます。古くは、平成の21年程度には9.0%の時代もございましたので、財政としては一応健全財政として大丈夫だと考えております。

2 番 田 代 丁寧な御回答ありがとうございます。今、起債に絡む公債費比率を聞こうと思ってたら先にお話しいただいて、どうもありがとうございます。

一番心配してるのが、松田土木を買うときに起債を起こした。ここで、PFIで新たにまた起債を起こしてく。31年度に松田小学校の起債が起きてくるということで、起債ラッシュになるわけです。そのときの、もう一度確認なんですけど、31年ベースの起債の比率、専門用語では公債費比率という表現だと思うんですけど、その公債費比率が今現在6.2から7%になると。そういう考えでよろしいでしょうか。

政策推進課長 失礼しました。6.2%から、学校のその16億5,000万を借りたとして7%ということで、これからPFI等がありますので7%を少し超えるかな、それでも8%はいかないというふうには計画しております。以上です。

2 番 田 代 ありがとうございます。今、回答があったように8%、いっても8%いかないということであれば、まさに健全財政なんでね、ぜひこれは起債を目いっぱい使っていただいた中で、いい学校をつくっていただきたいということです。

そこで、具体的にちょっと提案なんですけれども、財源が厳しい中で、きょうの町長の所信表明でも、ふるさと納税、新たなサイトを開設して寄附の増額を目指しますというふうに町長説明されました。そこで町長にお伺いしたいのが、今現在、ふるさと納税、松田のを見ますと、こういう返礼品がありますよということで、目的についてはこれをやるんだっていう言い方してませんよね。行政全般に対して有効に使っていくよということなんですけども、これ3番の質問にも関係あるんですけれども、このふるさと納税で木造校舎を建てるんだというおみこしを掲げて、松田出身の住民の方も結構いられると思うんですよ。そういった人が見たら、やっぱり自分が生まれた故郷に神奈川県初の木造校舎をつくってほしい、ふるさと納税がもっと集まるかもしれない。1億のつもりが2億集まるかもしれない。その半分は木造校舎につくんだよと。経費を除いたふるさと納税の手取り額は、木造校舎のためにやるんだと。30年度までは松田はこれでいくんだというふうに私は提案したいんですけども、町長、どういふふうにお考えされるでしょうか。

町 長 田代議員の御質問にお答えをします。どこで私の考え方が漏れたかわかりませんが、やっぱり以心伝心なんだろうね。おっしゃるとおりだと私は思っています。先だつての松田氏サミットにおきましても、ちょっときょうお話をさ

せていただいたように、やはり松田がルーツだということで我々が御先祖様からずっと引き継いできたこの場所を、今後もやっぱりなくしちゃならないというような思いがあって、ということでそういった方々に対して、松田をもっと知ってもらったり、準町民という形にしておるところでございます。ですので、今後ずっと長く続く、また松田町の出身で今、昨年も御寄附いただいた方々とか本当にいらっしゃいますので、そういった方々にもまた新たな歴史の1ページというような形での終焉を迎える部分と、あとは新しくなる部分の校舎建設についての御寄附をお願いすることについては、私も同じような考え方を持っております。新たなサイトというようなのもつくりましますし、今のサイトを活用しながら、とにかく幅広い方々に知っていただいて、そういった校舎をつくることによって愛着がさらに増すのではなかろうかと思っておりますので、今後でもすね、同じような考え方で進めますけど、まだまだ足りないところもございまして御提案いただくと非常にありがたいと思います。以上です。

2 番 田 代 先ほどの話でもありましたように、25億を1つの目安としているということで、お金をかき集めて今それが限界だというふうなことで、町長から今回答がありましたように、ふるさと納税を本当に木づくりのためにやるんだということでこの何年かやれば、ふるさと納税の制度が続くという前提の話なんですけども、行えば1億、2億、3億上積みできると思うんですよ。そうしましたら、25億が26億、27億ということで、将来を担う子供たちのために最高のプレゼントができると思います。そういうことで町長、ぜひその実現に向けてふるさと納税の目的を木造校舎ということでうたっていただければありがたいと思います。これは本当に強く要望いたします。

時間ももう7分になって押してきましたので、3番に移らせていただきます。若干2番で町長がお話になったことも3番に係ってくるんですけども、松田町の遺産、別名レガシーと言われてますけれども、遺産とすべきことに関して町長、思い入れをずっと3分、4分していただいたんですけど、これももう少しコンパクトにしてください、こういうことでやるんだというお話を、町長の思い入れを再度聞かせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

町 長 遺産とするということでありまして。当然、松田町の町民の人たち、今住んで

る人たち、これから新しく来てくれる町民の人たちにもやっぱり受け入れられるような開かれた学校にする必要があると思います。ただ一番大切なのは、そこにこれから学びやとして学んでくれる子供たちが、我々が感じていることとそうじゃないふう感じてることとかがあると思うので、やはり今後は学校をつくっていくに当たってはですね、今いる子供たち、もしくはまたお父さん、お母さんたちの御意見もやっぱり頂戴しながらやっていきたいなというふうにも思っております。いずれにしろ、恐らく建ててしまえば、木造だと償還が大体、償還と言いましょかね、償却が大体30年とかという話になるんですけど、今の木造は使い方によってはもっともちますしね、そういった格好でやっていく必要があると思うので、長い間愛される、また集えるような、また外に出てもまた戻ってきて、この学校でお父さんたち学んだから自分たちも一緒に学んでほしいと思っていただけるような、いろんな人たちの工夫が詰め込んだ学校にできるようにですね、やっていきたいと思っておりますし、やはりハード的な話をすると、自然環境に優しいものですよね、この松田町、足柄の歴史に沿ったような建物にしたいなというふうには思っています。ただ、もうRCでがちがちで固められた建物で、何かこう、何の中に入って学校の勉強しているのかなというふうなことには、本当にならないようにだけはしていきたいというふうにも思っていますし、課長から話がありましたように、併用しながらやっていくということについては、これからさまざまな御議論いただきながらやっていっていただければと思っていますので、その結果をですね、また議員の方々と共有しながら進めていきたいというふうに思います。以上です。

2 番 田 代 時間の関係で、最後の発言とさせていただきます。

三岳村ですか、去年の11月1日に見に行った学校なんですけども、あそこは面積が全部で3,838平米のうち、そのうち木造は1,672平米なんですよね。ぱっと見ると、結構木造っぽいんですけども、木造でつくった校舎44%です。全体の延べ床面積に対して44%。校舎が2,500平米のうち木造が1,672平米、給食室とかそういったものはやっぱり鉄筋みたいですよね。体育館についてはまさに鉄筋です。要は何を言いたいかっていうと、やはり予算の中で25億を目安に、ふるさと納税で稼いでも27~28億。それで全て木造ってやっぱり厳しいなと。

先ほど担当課長のほうからありましたけれども、うまくRCを併用する中で、RCでも全部木で囲っちゃえば、もう木造に見えるわけですよね。三岳村がまさに内装はもうそのとおりでした。だから、そういったつくりであれば、もう完璧だと思いますので、その辺は町長は専門家ですので、いろんなアイデアも出るとと思いますので、そういったことでRCをうまく組み入れながら、肝心なところは木造で、そういうようなことで使っていただければありがたいと思います。

最後に、三岳村がですね、人口わずか1,340人です。財政力の厳しい三岳村が12億6,000万円突っ込んでます。一方の川上村ですか、人口4,664人、村民税6億2,000万、松田の3分の1強です。これに、川上村は20億6,000万です。松田が25億で想定しているのに対して、わずか5億しか少くないです。本当につくるときは大変なんですけれども、つくった後に三岳村の小学生は何が誇りかと、自分の生まれ故郷は何が誇りかという、木造校舎だと。松田町にはこれがあると、この木造校舎があるというふうなことで、私はもうお金が大変だろうが、何があれだろうが、とにかくいい校舎をつくっていただきたい。そして、卒業する6年生がその校舎に入りたいということを強く要望して終わりにします。どうもありがとうございました。

議 長 以上で、受付番号第3号、田代実君の一般質問を終わります。